

2009年度

科目名	英米文学概論		
担当教員	森井 哲二		
配当	教福2	コード	15280
開期	通年	講時	月曜日5限
		単位数	4
授業テーマ	英米文学に関する基礎的知識の習得を目指す。		
目的と概要	その文化的・歴史的背景と共に、英米文学の大きな流れをたどる。英米文学における代表的な作者あるいは作品を取り上げ、詩、戯曲、小説などの特色や変遷を概観する。併せて、それぞれに関連する主要な概念の把握にも努める。		
成績評価法	授業への積極的関わりなど平常点や毎回の小テストを総合して評価する。		
テキスト	特に定めない。		
参考書	必要に応じて紹介する。		
履修に当たっての注意・助言			
講義計画			
<p>原則として毎回小テストを行なう。</p> <p>第1回 授業方針の説明(必ず出席してください) 人生と文学(日本文学、ドイツ文学、フランス文学、ロシア文学、英米文学等)</p> <p>第2回 詩、戯曲、小説等</p> <p>第3回 英米文学の背景(1)</p> <p>第4回 英米文学の背景(2)</p> <p>第5回 英米文学の背景(3)</p> <p>第6回 英米文学の背景(4)</p> <p>第7回 英米文学の背景(5)</p> <p>第8回 英国古代史</p> <p>第9回 アングロ・サクソン(Anglo-Saxon)語あるいは「古英語」(1)</p> <p>第10回 アングロ・サクソン(Anglo-Saxon)語あるいは「古英語」(2)</p> <p>第11回 アングロ・サクソン(Anglo-Saxon)語あるいは「古英語」(3)</p> <p>第12回 アングロ・ノルマン(Anglo-Norman)語あるいは「中英語」前期(1)</p> <p>第13回 アングロ・ノルマン(Anglo-Norman)語あるいは「中英語」前期(2)</p> <p>第14回 英語とギリシャ語・ラテン語</p> <p>第15回 Beowulf (8th-10th century)</p> <p>第16回 Geoffrey Chaucer: The Canterbury Tales (c.1387-1400)</p> <p>第17回 Edmund Spenser: The Faerie Queene (1590,1596)</p> <p>第18回 Thomas Kyd: The Spanish Tragedy (c.1589)</p> <p>第19回 Christopher Marlowe: Doctor Faustus (c.1588)</p> <p>第20回 William Shakespeare: King Lear (1605-6)</p> <p>第21回 John Milton: Paradise Lost (1667)</p> <p>第22回 John Bunyan: The Pilgrim's Progress (1678,1684)</p> <p>第23回 William Blake; William Wordsworth</p> <p>第24回 George Gordon Byron; Percy Bysshe Shelley; John Keats</p> <p>第25回 Daniel Defoe: Robinson Crusoe (1719)</p> <p>第26回 Sir Walter Scott: Ivanhoe (1819)</p> <p>第27回 R.L.Stevenson: The Strange Case of Dr.Jekyll and Mr.Hyde (1886)</p> <p>第28回 Thomas Hardy: Jude the Obscure (1895)</p> <p>第29回 W.Somerset Maugham: Of Human Bondage (1915)</p> <p>第30回 D.H.Lawrence: The Rainbow (1915)</p>			